戦後の
地方新聞・
雑誌シリーズ
8

1971年4月〜1985年9月（全145号）

「青い海」
解題・総目次・執筆者索引

創刊は本土復帰を目前にした1971年
オキナワの若い世代にむけて発信された数々の物語
ニービチ習俗、オヤケアカハチ、琉歌、泡盛、祖霊信仰
沖縄戦や基地問題、海洋博
固有の歴史・文化・民俗をチャンプルーにして疾走した
異色の総合月刊誌の全貌

「青い海」
解題・総目次・執筆者索引

◉解　題　松下博文
◉巻　数　全1巻
◉体　裁　A5判・上製・総約380頁
◉定　価　本体18、000円＋税
ISBN978-4-86691-264-6

2020年7月刊行

三人社

1971年4月〜1985年9月（全145号）

「青い海」
解題・総目次・執筆者索引

◉解　題　松下博文
◉巻　数　全1巻
◉体　裁　A5判・上製・総約380頁
◉定　価　本体18、000円＋税
ISBN　978-4-86691-264-6

「青い海」創刊50年記念出版

近刊予告

1970年代「青い海」復刻版　全88冊・別冊1

◉体　裁　A5判・並製・本文総約13、000頁
◉解　説　松下博文・他数名
◉価　格　未定
◉刊　行　2021年6月から全3回配本を予定

あすの沖縄をつくる若い広場
青い海
1971
4月号

総記関連図書〈既刊分〉

「月刊読売」解題・詳細総目次・執筆者索引
増補改訂版
解題／石川　巧〈立教大学文学部教授〉
体裁／B5判・上製・総386頁
推薦／佐藤卓己〈京都大学大学院教育学研究科教授〉
田村俊作〈慶應義塾大学文学部教授〉
定価／本体20、000円＋税

10雑誌にまたがる横断的執筆者索引の威力
戦前期中国関係雑誌細目集覧
戦前期中国関係雑誌細目集覧刊行会 編
〈収録誌一覧〉　北支那／上海文学／大陸／中日文化／東亜／燕京文学／黄鳥／大陸／大陸往来／長江文学
解題／竹松良明（刊行会代表）　大橋毅彦・木田隆文・秦剛・趙夢雲・戸塚麻子・和田崇
体裁／A5判・上製・総464頁
定価／本体18、000円＋税

反知性主義への抵抗！
文化運動年表
浦西和彦 著
〈明治・大正編〉全1巻
〈昭和戦前編〉全1巻
推薦／石牟礼道子・黒古一夫・紅野謙介・澤地久枝・成田龍一・長谷川啓・山泉進
体裁／A5判・上製・総約1、260頁
各巻定価／本体18、000円＋税

三人社
〒606-8316
京都市左京区吉田二本松町4　白亜荘
電話 075-762-0368
FAX 075-762-0369
http://3ninsha.com/

●表示はすべて税別

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

「青い海」全景

——70年代から80年代の沖縄を駆け抜けたHybrid誌——

松下博文〈筑紫女学園大学教授〉

「青い海」が刊行された70年代初頭から80年代半ばまで、沖縄は、政治・経済・思想・文化を含めた全ての面で大きな転換期を迎えていた。71年の沖縄返還協定調印、72年の日本復帰、75年の沖縄海洋博、78年のナナサンマル（自動車の左車線変更）、82年の復帰10周年、87年の海邦国体は、米琉の文化基盤に本土文化が急速に覆い被さってきた時代であった。（略）

創刊から50年が経つ。「青い海」が駆け抜けた70年代初頭から80年代半ばまでの復帰後の沖縄は、人の成長に譬えれば0歳から10代半ば、雑誌のイメージ・カラーと同様に生命力にあふれていた。離島、青春・沖縄戦、音楽、祭り、新聞、コザ、宮古、八重山、「混血児」、豚、廃校、中国、水、絵画、墓、郷友会、性風俗、沖縄口、洋舞、そば、県政、琉球弧、観光、女性。全１４５号を俯瞰すれば、編集者の企図にかかわらず、創刊号から最終号まで、異種と同種と差異と離合をくりかえしながら政治・経済・社会・教育・文化をチャンプルーにしてハイブリッドでにぎやかで混沌としたメディア媒体として機能していることに驚かされる。

地方誌のようで地方誌でなく、サークル誌のようでサークル誌でなく、沖縄であって沖縄でない。むろん、周縁であって周縁でない。確かなことは、有名無名の往来の激しさと広告の多さ。地球をまるごと齧っている。

〈解題より抜粋〉

《主要執筆者》

安里英子
安積鋭二
安仁屋政昭
新川　明
新崎盛暉
井伊文子
池宮正治
池宮繁子
池宮城秀意
石川文洋
石野径一郎
石原昌一
石原昌家
伊是名剛
一泉知永
稲嶺一郎
稲村賢敷
上江州均
上原直彦
鵜飼照喜
大江健三郎
大川悦生
大宜見小太郎
大城立裕
大田昌秀
おおば比呂司
岡部伊都子
岡本恵徳
岡本太郎
尾崎秀樹
長部日出雄
尾竹俊亮
小野十三郎
加藤登紀子

金子光晴
川平朝申
神山政良
嘉陽安男
川田文子
川満信一
岸本マチ子
喜舎場朝安
北島角子
宜保栄治郎
儀間比呂志
清田政信
金城清子
金城次郎
金城光子
国吉真永
国吉真哲
国場幸太郎
古波蔵保好
崎山多美
更科源蔵
島尾敏雄
嶋津与志
嶋袋全幸
下島哲郎
霜多正次
尚　詮
新屋敷幸繁
砂川しげひさ
砂川哲雄
関　広延
園山精助
平良トミ
高江洲義寛

高橋悠治
高良倉吉
高良鉄夫
高良　勉
田名真之
玉城　哲
知名定男
長堂英吉
津野創一
当間一郎
徳田安周
徳田　淦
渡久地政一
渡久山寛三
友利哲夫
仲井間元楷
仲地　清
中川五郎
中里友豪
仲宗根将二
永積安明
仲程昌徳
永山絹枝
名城政次郎
新島正子
西銘順治
灰谷健次郎
船越義彰
ばばこういち
比嘉春潮
比屋根照夫
平井順光
平敷令治
平山良明

普久原恒勇
外間正幸
本田勝一
真栄田義見
牧港篤三
又吉栄喜
松川久仁男
松田道雄
松谷みよ子
松永伍一
三木　健
溝上泰子
宮城栄昌
宮城悦二郎
椋　鳩十
無着成恭
村松　喬
村山家国
森崎　東
もろさわようこ
山川岩美
山口栄鉄
山里永吉
山里純一
山城善光
山城善三
山田洋二
山之口貘
屋良朝春
屋良朝苗
吉浜　忍
淀川長治
和田　誠

全１４５号の特集タイトル一覧

【１９７１年】

- 本土復帰と若ものたち
- 青少年の非行・その周辺
- 若者と伝統芸能・文化
- 自衛隊の沖縄配備をめぐって
- 沖縄返還協定をめぐって
- 山之口貘の詩と青春
- もう一つの沖縄・離島
- 沖縄の今日と明日のために

【１９７２年】

- 沖縄のこころ・青春群像
- 復帰不安の沖縄
- 語りかける奄美大島
- 沖縄県の可能性
- 大和世のはじまり
- 沖縄戦後史の流れのなかに
- 沖縄の民話と伝説
- 沖縄の旅の風土記
- 沖縄の女性のあゆみ
- メッセージ北海道から沖縄へ

【１９７３年】

- 沖縄を拓くために・中国と沖縄をつなぐ
- 沖縄の歴史——激動を生きた人々
- 若夏国体と沖縄のスポーツ
- 復帰元年の始末記
- 宮良長包の生涯と音楽
- 沖縄のまつりと行事
- 沖縄の中の本土
- 近代沖縄文学と差別
- 自然破壊と滅びゆく動物
- 民話と昔話の沖縄

【１９７４年】

- よみがえる沖縄の芝居
- 沖縄の歴史——南島に魅せられた人々
- コザ文化と沖縄市誕生
- 沖縄に還ろう——人間らしさを求めて
- 本土の中の沖縄
- 異国船来琉と近世沖縄
- 伊江島——再発見の旅
- 伝統染織の明日をつむぐ
- 戦後沖縄の重要論文集
- 琉球民謡の世界を探る

【１９７５年】

- 沖縄歴史の人物裏がえ史
- 沖縄の食べもの文化考
- 八重山——歴史の旅
- 沖縄・復帰三年のカルテ
- 詩人・山之口貘の世界
- 沖縄の海洋文化と海洋博
- 泡盛・その歴史と文化
- 宮古・こころへの旅
- 沖縄のマスコミを考える
- 沖縄の芸能——舞踊と音楽

【１９７６年】

- 在沖外国人の見た沖縄及び沖縄人
- 健康をつくる
- 本部——拓けゆく北山
- 沖縄人はどこから来たか
- 沖縄・わらべうたの世界
- シマーぐゎあ再発見のすすめ
- 奄美の民話と伝説を訪ねて
- てだこの都市・浦添の祭りと歴史
- 〝郷土〟を学ぶということ
- 沖縄の祭りとエロチシズム

【１９７７年】

- 儀間比呂志・版画の〝沖縄〟
- 土と炎の伝統工芸・やちむんへの誘ない
- 名護の風土と異色人物列伝
- 33年目の沖縄戦と集団自決
- 八重山の英雄・オヤケアカハチ
- 水産王国・沖縄を創るために
- 沖縄の怨霊・怪談全集
- 文化村読谷の歴史と芸能
- 沖縄のユタ社会と古神道
- 沖縄の子守うた風土記

【１９７８年】

- 大城立裕の〝沖縄〟と文学
- 沖縄の空手道と拳豪烈伝
- 伊平屋・伊是名——日本と琉球のはざまに漂う島
- アジア紀行——沖縄文化の源流を訪ねる
- 終わりなき〝交通革命〟の行方
- 沖縄の〝ちびっこ文化〟を創る
- 情熱の歌人・恩納ナベ考
- 琉球かすりの里・南風原今昔
- 沖縄のニービチ習俗
- 世界に生きる——カナダ、メキシコ、ハワイの沖縄人

【１９７９年】

- 沖縄人の意識をさぐる
- 続・沖縄人の意識をさぐる
- 糸満・語り継ぐ海人の歴史
- いま「地域の時代」と沖縄
- 続・いま「地域の時代」と沖縄——沖縄社会大衆党
- 沖縄のレジャーと遊びの考現学
- 沖縄の住まいと建築文化
- 第一回青い海児童文学賞発表
- 語り継ぐ大宜味女の昭和史
- 長寿県日本一の沖縄・その秘密と老人問題

【１９８０年】

- 子どもに学ぶ——明日の教育のために
- いま、都市をどう考えるか
- ドキュメント・琉球大学
- 「沖縄のやさしさ」って何ですか
- 沖縄の混血児たち
- 豚の特集
- 第二回青い海児童文学賞発表
- 沖縄を出た島びと
- ユタと迷信と祖霊信仰
- マイクが追った〝80沖縄〟

【１９８１年】

- 再びユタに直撃インタビュー
- 創刊百号記念
- ある廃校との闘い
- 古代琉球のなぞに挑む
- ユレーグワー（模合）と沖縄人
- 沖縄人にとって（姓名）とは？
- 第三回青い海児童文学賞発表
- 中国になにを見たか
- 軍用地にみる沖縄人気質
- Uターン青年たちは、今

【１９８２年】

- 大正・昭和・沖縄おんなの生活誌
- 久米三十六姓よどこへいく
- 動物アイランド・沖縄
- 十人十色十年
- 朱と黒の工芸
- 沖縄の水の文化誌
- ハイサイ　シーサー
- 現代沖縄絵画の先達たち
- 「墓」・祖先との語らい
- 郷友会社会の沖縄

【１９８３年】

- 対談「沖縄の未来を語ろう」
- 現代沖縄舞踊の魅力
- ザ・ハブー君は毒蛇ハブを知らない！
- ここまで来た沖縄の性風俗
- マチグワーばんざい！
- 拡げよう緑の沖縄！
- 沖縄口よ、おまえは何処へ！
- ぎやまん瑠璃の世界へ
- 洋舞十年

【１９８４年】

- 琉球弧の女からのメッセージ
- 沖縄そばと生活文化誌
- 沖縄味覚徒然〈泡盛と琉球料理〉
- 沖縄新聞人のうちあけ話
- 新注釈「組踊五番」
- 今、県政をどう進めるか
- 玉城朝薫の世界
- 琉球弧の木精たち
- 針突（ハジチ）
- 第６回青い海児童文学賞発表
- 平屋敷朝敏の『謎』と『手水の縁』

【１９８５年】

- 沖縄おんな物語
- 21世紀への要石・国際センター
- 観光沖縄を考える
- 戦世四十年の沖縄
- 沖縄の現代青春群像・抄
- 国連婦人の十年　ナイロビ報告